

令和8年度(2026年度)全国学力・学習状況調査 結果概要

1 調査の概要

(1)目的	義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
(2)実施日	令和8年4月20日(月)～5月29日(金)
(3)対象	・小学校、義務教育学校前期課程及び特別支援学校小学部の第6学年児童 ・中学校、義務教育学校後期課程及び特別支援学校中学部の第3学年生徒
(4)内容	①児童生徒:教科調査(国語、算数・数学、英語)/質問調査(オンライン実施) ②学 校:質問調査(オンライン実施) ※英語は中学校のみ ※小学校児童生徒質問調査および中学校英語・生徒質問調査は、文部科学省 CBTシステム(MEXCBT)によるオンライン方式(CBT:Computer Based Testing)で実施
(5)本県の参加状況	・小学校 324校(約15,600人) ・中学校 163校(約15,500人) (熊本市を含む公立小中学校等)

2 本県の調査結果の概要

(1)教科調査の結果

上段:平均正答率、下段:平均正答数/問題数

学年		小学6年		中学3年		
教科区分		国語	算数	国語	数学	英語3技能 IRTスコア※
R8	本県 (公立)	59% (7.6/13問)	55% (8.7/16問)	62% (9.3/15問)	53% (8.5/16問)	478
	全国 (公立)	60.9% (7.9/13問)	56.4% (9.0/16問)	63.9% (9.6/15問)	57.0% (9.1/16問)	499

※IRT(項目反応理論:Item Response Theory)とは、児童生徒の正答・誤答が、問題の特性によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。

※IRTスコアとは、各設問の正誤パターンから学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。

※英語は、「聞くこと・読むこと・書くこと」の3技能について公表。「話すこと」を入れた4技能は後日公表。

各教科のポイント (○成果 ●課題)

【国語】

- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。(小)
- 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。(小)
- 文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うこと。(中)

【算数・数学】

- 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ること。(小・中)
- 筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみること。(中)

【英語】

- 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して書くこと。(中)
- 日常的な話題や社会的な話題について、話を聞き、概要や要点を捉えること。(中)

(2) 質問調査の結果

上段:肯定率、下段:全国の肯定率との差

質 問 事 項			小学校		中学校	
			本県	全国	本県	全国
児童生徒	自己有用感等	将来の夢や目標を持っていますか (「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」の割合)	83.1% (+1.3)	81.8%	67.6% (±0)	67.6%
		学校に行くのは楽しいと思いますか (「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」の割合)	88.7% (+3.0)	85.7%	87.5% (+2.1)	85.4%
		先生は、あなたのよいところを認めてくれている と思いますか (「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」の割合)	92.6% (+1.2)	91.4%	91.7% (+0.8)	90.9%
	主体的・対話的で深い学び	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の 考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立 てなどを工夫して発表していましたか (「発表していた」+「どちらかといえば、発表していた」の割合)	59.2% (-7.2)	66.4%	53.4% (-12.1)	65.5%
		授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分 から取り組んでいましたか (「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」の割合)	74.5% (-3.1)	77.6%	73.5% (-5.3)	78.8%
	授業の理解度	国語の授業の内容はよく分かりますか (「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」の割合)	82.7% (+1.2)	81.5%	73.6% (-3.2)	76.8%
		算数(数学)の授業の内容はよく分かりますか (「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」の割合)	77.4% (-0.1)	77.5%	69.3% (-4.9)	74.2%
		英語の授業の内容はよく分かりますか (「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」の割合)	—	—	56.8% (-7.4)	64.2%
	学校	児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いて いると思いますか (「思う」+「どちらかといえば、思う」の割合)	87.4% (+3.5)	83.9%	88.9% (-1.8)	90.7%

質問調査のポイント

【児童生徒質問】

- 「学校に行くのは楽しい」等の自己有用感・幸福感等に関する回答が、全国平均を上回っている。
- 「主体的・対話的で深い学び」に関する項目は、全国平均を下回っている。
- 「授業の理解度」に関する項目は、一部を除き、全国平均を下回っている。

【学校質問】

- 「児童生徒が、授業中の私語が少なく落ち着いている」と感じている学校の割合は、小学校が全国平均を上回っている。中学校は9割近い学校が肯定的な回答をしているが、全国平均を少し下回っている。

3 今後の取組

- 県や市町村教育委員会、小中学校の代表者からなる「『熊本の学び』推進本部」において、課題の改善に向けて今後の方向性を協議します。
- 小中学校及び義務教育学校の校長等を対象にした「全国学力・学習状況調査の結果及び今後の取組に関する説明動画」を令和8年8月31日(月)より配信予定です。

担当 熊本県教育庁市町村教育局義務教育課
課長 松永(57840) 審議員 平井(57842)
熊本県教育庁県立学校教育局高校教育課
課長 草原(57440) 審議員 折尾(57442) 110